

5つのコミュニケーションポイント

Clear Voice 大きな声ではなくはっきりと

Eye contact 相手を見て「伝えたい」「知りたい」

Gesture 表情豊かに 身体を使って「伝えたいことをより分かり易く」

Smile Reaction Really? Oh no! I see. That's right. Once more, please. OK. I see.

英語環境づくり・教師の授業力向上プロジェクト

English Room English Road



新設 英語専用教室

机をなくし、児童が身体を存分に動かしながら学習に取り組まれるようにしています。教材・教具を整理し、授業者がスムーズに授業を進められるようにしています。



英語教育のあしあと

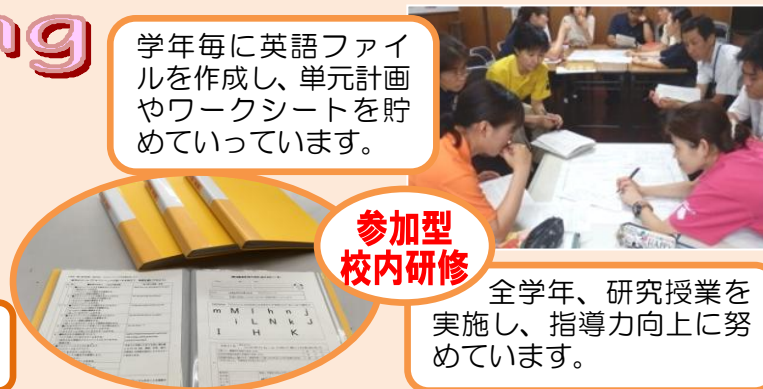
これまでの授業の様子を「英語教育のあしあと」としたり、季節ごとの英語を紹介したりする場にはしています。

Staff Training



今週のひとこと English

毎週水曜日の職朝で、教室英語の練習を輪番で行っています。今年で3年目になりました。



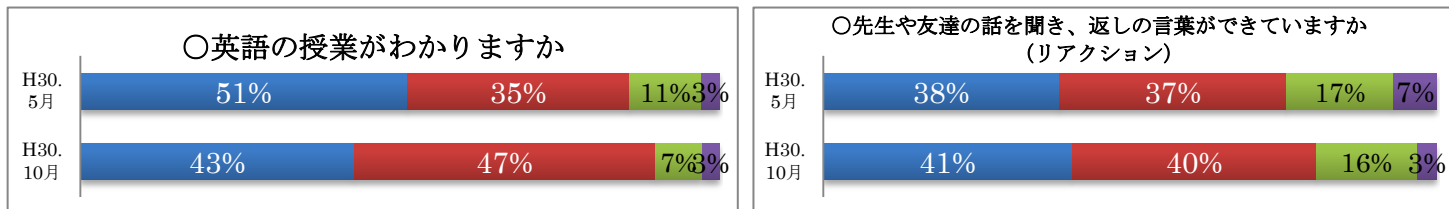
参加型 校内研修

全学年、研究授業を実施し、指導力向上に努めています。

学年毎に英語ファイルを作成し、単元計画やワークシートを貯めていっています。

おざかっこアンケートの結果から (H30. 5月・H30. 10月実施)

■ とても ■ できる ■ 少し ■ もう少し



【成果と課題】

○5月では、英語の授業が分からないと14%の児童が回答していたが、10月では、10%まで減った。これは、毎回の授業で「分かった」、「できた」を確認してきたことで、「自分ができた」ということを児童が実感できたからだと考える。

△今年度、力を入れてきた「相手の考えを聞いてリアクションする」ことの数値があまり伸びなかった。これは、児童が「どのような場で、どのようなリアクションをすればいいのか」正しく理解できるような手立てができていなかったからだと考える。

平成28～30年度 文部科学省教育課程特例校 (英語教育)
平成28～31年度 御船町教育委員会指定

御船町立小坂小学校公開授業概要

研究主題
豊かなコミュニケーション力を身に付け、国際社会をたくましく生きる児童の育成
～どの子どもも楽しく「分かる・できる」授業のUDを通して～

目指す児童像
相手の考えを聞いて受け止め、自分を振り返りながら学びを深めていくことができる児童

<p>低学年 体も使って、楽しんでコミュニケーションを図ることができる児童</p>	<p>中学年 相手の考えを聞いて、自分の考えを伝えることができる児童</p>	<p>高学年 自分や身の回りの物事について、相手の考えを聞いて受け止め、自分を振り返ることができる児童</p>
--	---	--



〈仮説1〉 児童が伝え合う必然性を感じる場を設定すれば学びを深めることができるだろう

〈仮説2〉 本時に身に付けたい学習内容に十分に慣れ親しませることができれば、学習内容の意味を確実に理解することができるだろう

【視点1】 授業づくり・授業実践
○必然性のある交流の場の設定
○単元のゴールを見据えた単元づくり

【視点2】 基礎・基本的な知識・技能の定着
○授業の中での習熟の時間の確保
○学力充実タイムの活用

【視点3】 学習環境づくり
○英語を中心とした校内学習環境の整備
○学習のあしあと作成

小・中学校9年間を見通した系統 → 学習内容・発達段階に応じた活動内容・評価方法 小中連携

授 業 の U D

アセスメント → 授業内の評価・振り返りカード・意識調査・実態調査